

メドックマラソン参加と南フランスの旅

柳澤 重毅

■概要

ボルドー地方を走るメドックマラソンに参加し、フランス南部を中心に旅行した。最初の4日間は、ボルドーワインのシャトー見学とメドックマラソンのツアーに参加し、その後は南仏各地を巡り、合わせて三週間の旅行となった。

ツアー以外は予約せずに渡仏し、鉄道は現地でチケットを購入、宿泊はインターネットを使って前の滞在地で次の滞在地のホテルを予約をするといった方法で旅行してみた。

■日程 (2011年9月)

日付	滞在地	訪問地ほか
7	ボルドー	
8	(Bordeaux)	ソーテルヌ(Sauternes)、サンテミリオン(Saint-Émilion)
9		ペサック(Pessac)、マルゴー(Margaux)
10		メドックマラソン参加
11	サルラ	
12	(Sarlat)	モンティニャック(Montignac)、ラスコー(Lascaux)
13	カルカソンヌ	
14	(Carcassonne)	ミディ運河(Canal du Midi)、シテ(Cité)
15	エクス=アン=プロヴァンス	
16	(Aix-en-Provence)	マルセイユ(Marseille)
17		エクス=アン=プロヴァンス市内
18		エクス=アン=プロヴァンス市内
19	ニース	
20	(Nice)	ニース市内
21	ニーム	
22	(Nîmes)	ニーム市内
23		アルル(Arles)
24		ポン・デュ・ガール(Pont du Gard)
25		モンペリエ(Montpellier)
26	パリ	
27	(Paris)	パリ市内

■旅程

●ボルドー 9月7～10日

羽田空港⇒（飛行機）⇒シャルル・ド・ゴール空港
⇒（飛行機）⇒ボルドー・メリニャック空港⇒（バス）⇒ボルドー市内

○ボルドー Bordeaux

ボルドーは、フランス南西部のガロンヌ川(La Garonne)沿いに位置し、アキテーヌ地域圏の首府でジロンド県の県庁所在地。「ボルドーワイン」とはジロンド県全域で生産されたワインが名乗ることができる。

サン・タンドレ大聖堂(Cathédrale Saint-André)は、サンティアゴ・デ・コンポステーラ(Saint-Jacques-de-Compostelle)の巡礼路のひとつ。



○シャトー見学

・ソーテルヌ Sauternes

貴腐ワインのシャトー、ラ・トゥール・ブランシュ(La Tour Blanche)。この地域の独特な気候により、葡萄に貴腐菌が付き、それにより実に穴があき、そこから水分が抜け乾燥し糖分が濃縮される。乾燥した葡萄だけを収穫し醸造に用いるが、1本の葡萄の木からグラス1杯分のワインしか作れない。

・サンテミリオン Saint-Émilion

ボーセジュール・ベコ(Beau-Séjour Bécot)。この地域は石灰岩を採掘したため地下が数 km に渡って迷路のようにつながっている。近くには教会があり、墓地の地下まで掘ってしまっただけで人骨が出てきたこともある。シャトーでは、この地下空間を利用してワインを製造された年ごとに保存している。



・ペサック Pessac

ラ・ミション・オー・ブリオン(La Mission Haut Brion)。温度管理されたチャペル風の熟成室にワイン樽がずらりと並ぶ。元々別のシャトーだった、シャトー・オー・ブリオンとシャトー・ラ・ミション・オー・ブリオンは、現在同じ所有者なので、こちらで二つのワインを試飲できる。

・マルゴー Margaux

ローザン・セグラ(Rauzan Ségla)。品質の低下により前所有者が手放したシャトーを1994年にシャネルが買い取り、土地改良を行った。改良方法は地下にパイプを埋め、水はけを良くすること。これにより水分を求めて葡萄の木の根が地下深く伸び、様々な栄養を吸収することになる。10年ほどで徐々にワインの質が向上していったとのこと。

ワインは、18ヶ月の熟成期間中、3ヶ月ごとに澱引き（おりびき）という作業が行われており、ちょうどその作業を見学することができた。グラスと ろうそくを使い濁り具合を見て、上澄みだけを別の樽へ移す。4回目の澱引き後には、卵白のメレンゲを混ぜ沈殿させる、清澄という作業も行われるとのこと。



【champignon】

champignon という単語からは、「きのこ」を連想するが、貴腐ワインのシャトーでの説明で、頻繁にこの単語が使われていた。貴腐菌の「菌」のことをこう呼んでいる。



○メドックマラソン

メドックマラソンは、メドック地方のワイン・シャトーを巡るフルマラソン。仮装が義務付けられており、給水所となるシャトーでは、水だけでなくワインが提供される。

9月10日9:30、スタート。今年の仮装のテーマは動物。ネコ、ブタ、ウシ、カメなどの他、ミツバチ、テントウムシのような昆虫の仮装もあり、また、テーマにこだわらず、好きな格好をしている参加者もいた。

給水所は、各シャトーなどにあるため、何キロごとなどのように決まっていない。水とワインの他、バナナ、オレンジ、菓子類（今年はカヌレが初登場とのこと）、後半には、牡蠣、ステーキ、生ハムが提供される。スタート1km付近で早くも「給ワイン所」が登場。各シャトーでワインを楽しむためしばらくとどまる参加者も多い。ステーキの場所は分からず、生ハムは行列ができていたため断念したが、牡蠣はおいしく頂いた。

午前中は曇り空で走りやすかったが、午後から晴れてきて暑くなってきた。後半はほとんど歩く。6時間33分で一応完走。完走の副賞としてワイン1本もらう。

●サルラ 9月11～12日

ボルドー⇒（鉄道）⇒ベルジュラック⇒（バス）⇒サルラ

○サルラ Sarlat

サルラはボルドーから東部内陸にある小都市。中世の街並みが残っており、リベルテ広場(Place Liberté)を見下ろす手すりの上に、人が座っている姿勢の銅像がある。

サルラは、ラスコーへ行くための拠点としてたまたま選んだ街だったが、滞在したホテルの女性に、次の滞在地がカルカソンヌだと言うと、「中世の街が好きなのね」と都合よく解釈してくれた。



【cité médiévale】

中世都市。都市は通常 **ville** という単語を使うが、歴史的な街としての都市は **cité** という単語を用いることがある。

○ラスコー2 Lascaux II

ラスコー洞窟の壁画は 1940 年に発見された。多くの見学者が訪問したことにより、壁画の劣化が進んだため 1963 年に閉鎖。劣化は主に、カビにより黒くなる変化と、二酸化炭素による石灰化で白くなっていく変化。現在は 1972 年から 1983 年まで 11 年かけて精巧に作られたレプリカ、ラスコー 2 の見学ができる。

ラスコー2 のチケットは、繁忙期の夏にはラスコーまで 2km のところにあるモンティニャック (Montignac) の観光案内所で購入する。この日は 9:30 に開く観光案内所に 10 人ほどの観光客が集まっていたが、開くと同時に職員が「現地でチケットを購入して下さい」と伝えたため、みんなそのまま現地へ向かった。ちょうどチケット販売が現地に切り替わった日だったらしい。

壁画は、色の濃淡を使ったり、岩の起伏を利用した立体的なものなどがあり、先史時代のものとは思えない芸術的なものだった。

ラスコー2 周辺で、更に 800m 進むと、ネアンデルタール人の化石と、
” 生きている ” 熊が見られるという案内があったため行ってみることにした。そこは、ネアンデルタール人と熊の化石が発見され、それにちなみ熊を飼っているらしい。ラスコーはクロマニヨン人の遺跡であるのに対し、すぐ近くでネアンデルタール人の化石が出たというのが不思議だったが、これらの人類がヨーロッパで共存していた時代がしばらく続いていたらしい。



【grotte, gouffre】

いずれも洞窟と訳されるが、ラスコーは **grotte de Lascaux**、同じ地域には **gouffre de Padirac** という洞窟がある。**grotte** が水平方向に広がる洞窟なのに対し、**gouffre** は深さのある洞窟を指す。

●カルカソンヌ 9月13～14日

サルラ⇒(バス)⇒スイヤック⇒(鉄道)⇒カルカソンヌ

○カルカソンヌ・シテ Cité de Carcassonne

カルカソンヌはフランス中南部の都市。城壁で囲まれた中世の都市シテ(Cité)が有名。

カルカソンヌのシテは十数年前に一度訪れたことがあるが、そのときはあちこち写真を撮って歩いただけで、あとからどの写真がどのあたりなのか、全く分からなくなっていた。そのため、今回は写真を撮る度にどこの写真かをメモしながら歩いていた。城壁の外側、南東端の塔のあたりで、地元のおじさんに声をかけられる。絵を描いているのかと聞かれ、写真の場所をメモしていると伝えると、

塔の名前を書いているのか、と言いながら僕の持っている地図を見て、この地図には塔の名前が書いていないな、それぞれの塔には全部名前が付いているんだよ、これはグラン・ブリュラス塔(Tour du Grand Brulas)とって...と教えてくれた。その後、ヴェルサイユのトリアノンの話になるなど、しばらく興味深い会話をした。



○ミディ運河 Canal Midi

カルカソンヌ駅近くからミディ運河(Canal Midi)クルーズの観光船に乗る。

ミディ運河は地中海と大西洋を結ぶ水路として 17 世紀に建設された。全長 240km、高低差 190m。地中海沿いのセート(Sète)から、上流のトゥールーズ (Toulouse)を結び、トゥールーズからはガロンヌ川を介して大西洋へとつながる。これにより、それまでのジブラルタル海峡を通る、長距離で高コストな流通が大幅に改善された。

クルーズはカルカソンヌから上流 (トゥールーズ方面) へ向かう、2 時間半の往復。途中、2 つの水門を通る。ミディ運河は閘門式運河と呼ばれ、水門が高低差のある上流と下流を仕切っている。船が通過するときには、船を前後の水門で仕切られた閘門室に入れ、前後の水門を開閉することで水位を変える。

【écluse】

「水門」または「堰」。閘門のことも écluse という言葉で表わしている。

●エクス=アン=プロヴァンス 9月15~18日

カルカソンヌ⇒(鉄道)⇒マルセイユ⇒(鉄道)⇒エクス=アン=プロヴァンス

○エクス=アン=プロヴァンス

エクス=アン=プロヴァンスはフランス中南部に位置し、ローマ時代からの泉の街として知られている。19 世紀、エミール・ゾラの父フランチェスコ・ゾラが、ダム(ゾラのダム:Barrage Zola)と水路の建設を行ったこともあり、現在も水が豊富で、街のあちこちに噴水がある。ミラボー通り(Cours Mirabeau)にある、温水の泉(Fontaine d'eau chaude)は、年中水温が 24℃に保たれ苔



で覆われている。4頭のイルカの広場(Place des 4 dauphins)の噴水のイルカにはうろこがある。

セザンヌのアトリエは、エクス=アン=プロヴァンスの中心から数百メートル北にある。中には絵画の道具はもちろん、セザンヌが着ていたコートなど当時のものがそのままの状態で見られる。アトリエには大きな絵画のための高さ数メー

トルの搬出口があり、設計も工夫されている。アトリエから更に数百メートル進むとセザンヌの作品にも多く描かれているサント・ヴィクトワール山(Sainte-Victoire)が見える。



○マルセイユ Marseille・イフ島 Île d'If

マルセイユは地中海沿岸に位置し、プロヴァンス＝アルプ＝コートダジュール地域圏の首府、フランス第2の都市。

イフ城(Château d'If)はマルセイユ沖にある島に16世紀にマルセイユ防衛のための要塞として建てられたが、すぐに監獄としても使われるようになった。

伝説の「鉄仮面」も留置されていたとのことだが、ここを有名にしたのは何と言ってもアレクサンドル・デュマの小説「モンテ・クリスト伯」。小説では主人公がイフ城からの脱獄に成功するが、現実には脱獄に成功した者はいなかったらしい。



○ノートルダム・ド・ラ・ギャルドバジリカ聖堂 Basilique Notre-Dame de la Garde

急な長い坂道を上り、丘の頂上にあるノートルダム・ド・ラ・ギャルドバジリカ聖堂へ。この聖堂は13世紀に建立、丘の高さ147.85m、塔の高さ33.80m、台座の高さ12.50m、像の高さ9.72m、像の重さ9,796kg。その壁には第二次世界大戦当時の弾痕が残されている。

●ニース 9月19～20日

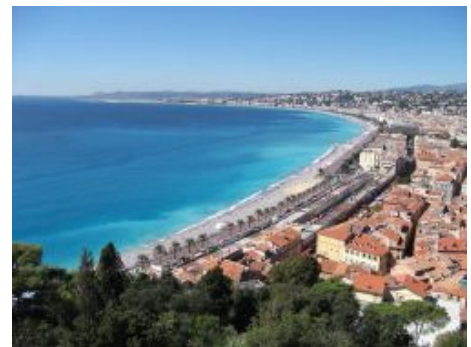
エクサンプロヴァンス⇒(鉄道)⇒マルセイユ⇒(鉄道)⇒ニース

○ニース Nice

ニースはフランス南東部に位置し、イタリア国境とも近い。

プロムナード・デ・ザングレ(Promenade des Anglais)から出発するミニ列車に乗る。旧市街を通り、城跡のある丘(Colline du Château)へ上り、そこでしばらく留まり、プロムナード・デ・ザングレまで戻る。

マティス美術館(Musée Matisse)と考古学博物館(Musée d'Archéologie)はニース市街から北の丘の上にある。どちらも休みで入れなかったが、隣接する公園は広々としていてのんびりできる。



●ニーム 9月21～25日

ニース⇒(鉄道)⇒マルセイユ⇒(鉄道)⇒ニーム

○ニーム Nîmes

ニームはフランス中南部にあり、主な観光スポットは、マーニュ塔(Tour Magne)、メゾン・カレ(Maison Carrée)、古代闘技場(Arènes)の三つの遺跡。

マーニュ塔は、フォンテーヌ庭園(Jardin de la Fontaine)の高台にあり、ニームが一望できる。メゾン・カレでは、ニームの勇者の歴史を辿る 3D 映像を上映している。古代闘技場は、ローマ時代は剣闘士の戦い、現代は闘牛が行われている。

音声ガイドは日本語のものもあり、ローマ時代にタイムスリップしたような、実況調の解説はかなり充実している。全部聞きながら見て回ると余裕で1時間以上かかる。ローマ時代の剣闘士の話が特に詳しく、面白い。



【fontaine】

ガイドブックには Jardin de la Fontaine のことを「フォンテーヌ庭園」を訳しているが、ここでは一般名詞と思われる。「泉の庭園」とでも訳した方が良さそう。

○アルル Arles

アルルはニームの南東にあり、ローマ時代の遺跡が数多く残る。

円形闘技場(Amphithéâtre)は、ニームの古代闘技場と同様、保存状態の良い闘技場のひとつ。修復工事中だったが、工事箇所以外は比較的自由に歩きまわれる。

古代劇場(Théâtre antique)は、高い柱が 2 本だけ残っていて、倒れてしまわないのか心配になるが、低いところにある別の柱を見てみると、しっかり金具で固定してあった。多分、高い柱も何らかの固定がなされているんだと思う。敷地内では、古代劇場の歴史を解説するビデオが流されている。

ローヌ川沿いにあるローマ時代の公衆浴場(Thermes de Constantin)は、様々な温度の浴槽やサウナがあったらしい。



県立アルル古代博物館(Musée Départementale Arles Antiques)には、発掘されたローマ時代の様々な出土品が展示されている。特に装飾が施された石棺が印象に残った。

この他、回廊が有名なサン・トロフィーム教会(Église Saint-Trophime)、アルル出身の画家ジャック・レアチュの美術館(Musée Réattu)を訪問。



○ポン・デュ・ガール Pont du Gard

ポン・デュ・ガールは、ニームの北東に位置し、ローマ時代、ユゼス(Uzés)のウール川(l'Eure)水源から、ニームへの水道をガルドン川(le Gardon)を渡すための水道橋として建造された。一番下のアーチと並行して人が渡れる橋が架かっている。水路は一番上で、あらかじめ団体で予約すると通ることもできる。



○モンペリエ Montpellier

モンペリエはフランス中南部、ラングドック＝ルシヨン地域圏首府。モンペリエの中心は、三美神(Les trois Grâces)の噴水のあるコメディ広場(Place Comédie)。コメディ広場の北側には、シャルル・ド・ゴール広場(Esplanade Charles de Gaulle)が延びる。両側に道路があり、構造的には札幌の大通公園に似ている。

ファール美術館(Musée Fabre)は、フランソワ＝グザヴィエ・ファールの所蔵作品がもとになっている。有名な作品は、ギュスタヴ・クールベの「こんにちは、クールベさん」など。

モンペリエの東部に広がる新市街アンティゴン(Antigone)。1978年に市が軍用地を買い上げ、ネオクラシック建築の都市空間が建造された。マンションや店舗、医療施設、トレーニング施設などがある。ルーヴル美術館所蔵の彫刻のレプリカが点在している。



【esplanade】

「広場」は通常、place という単語が使われるが、esplanade は建物やモニュメントの前にある広場を表わす。

●パリ 9月26～27日

ニーム⇒(鉄道)⇒パリ

○パリ Paris

友人二人に会ったのと、買い物をした以外は、ホテル(オペラ)近くのチュイルリー公園、オルセー美術館、ルーヴル美術館周辺を散策した。



●帰国

パリ⇒(バス)⇒シャルルドゴール空港⇒(飛行機)⇒成田空港

■経費

・ 予算

トラベラーズチェック (5/6 購入)	¥179,694 (€1,500) (¥118.61/€)
現金 (8/2 両替)	¥49,265 (€430) (¥114.57/€)

・ 出費

航空運賃 (東京ーパリ、ボルドー往復)	¥235,160
メドックマラソンツアー (6/7 払込)	¥149,899 (€1,240) (¥118.50/€)
鉄道(9/11～9/25)	¥33,370 (card€315.6) (¥105.7/€) +現金€50.5
宿泊(9/11～9/28)	¥140,963 (card€1,331.54) (¥105.9/€)
費用合計	約¥660,000

・ 残額

トラベラーズチェック	€1,000
現金	€38.22

トラベラーズチェックは、以前は発行元のアメリカンエクスプレスへ行けば手数料なしで換金できたが、現在はどこも手数料が掛かる。サルラの郵便局でトラベラーズチェック 500 ユーロを換金、手数料は 7.50 ユーロだった。郵便局は比較的手数料が安い。

■参考 URL

- ・ 旅行記「メドックマラソン参加と南フランス旅行」

<http://tabisuke.arukikata.co.jp/album/13621/>

- ・ トランスネーション(Transnation)

日本人向けメドック・マラソンなどを企画する、ボルドー地方のツアー会社

<http://www.trans-nation.net/>

- ・ Booking.com

インターネットでのホテル予約サイト

<http://www.booking.com/>